

機関番号：82720

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520607

研究課題名(和文)

鎌倉を中心とする中世密教の受容と展開

研究課題名(英文)

Acceptance and Development of Esoteric Buddhism in the Medieval

Kamakura

研究代表者

西岡 芳文 (NISHIOKA YOSHIFUMI)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸課長

研究者番号：90443407

研究成果の概要(和文): 龍華寺聖教・称名寺聖教を用いて、鎌倉時代の鎌倉における密教の実態を探った。その結果、鎌倉時代後期の幕府要人の間で、現世利益を希求するための修法が盛行していたことが明らかになった。円覚寺のごとき禅院の成立にも密教僧が関与していることが判明した。中世の鎌倉には、幕府要人の庇護のもと、さまざまな法流が競って本拠を設け、修法の実績を積み重ねていた。密教諸流をめぐる京都・鎌倉の拮抗関係は、日本仏教史・文化史のダイナミックな把握を可能にする研究素材として有効であることが確認された。

研究成果の概要(英文): We looked for the reality of the medieval esoteric Buddhism in Kamakura using Buddhist books in Ryuugeji temple and Shomyoji temple. As a result, it became clear that the incantation in esoteric Buddhism to crave loaves and fishes was performed extensively between the Shogunate head in the latter period in Kamakura era. For example, it was recognized that an esoteric Buddhism monk participated in the establishment of the temple of the Zen Buddhism such as Engaku-ji Temple. A sect of various esoteric Buddhism also competed with the one of the protection of the Shogunate head in medieval Kamakura, and a headquarters was established, and a religious outcome was being piled up. It was confirmed that the rival relation in Kyoto concerning a various party and Kamakura of esoteric Buddhism is effective as the study material it enables to grasp Japanese Buddhist history and a cultural history dynamically.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：3102

キーワード：鎌倉密教 龍華寺聖教

1. 研究開始当初の背景

空海および最澄の門弟によって唐土からもたらされた密教は、朝廷の保護のもとで平安時代後期には独自の発展をとげた。会昌年

間の廃仏政策によって頓挫をきたした中国密教に対し、日本密教は、アジアの仏教文化圏の中でも特異な位置を築いている。ところが密教は、寺院組織とは別個の閉鎖的な師弟

関係のなかで継承されたことから、その実態を知ることが極めて難しい。隆盛を誇った日本密教の存立基盤がどこにあったのか、今なお学問的な説明はほとんどなされていないのが実情である。

関東に鎌倉幕府が成立すると、幕府の政治力と経済力を背景に、鎌倉にも次々と密教寺院が創建された。畿内の高僧たちも招きに応じて下向し、法流の主要な部分を鎌倉に伝えた。ことに蒙古襲来を契機とする国家的な危機の中で、戒律と密教を兼修する西大寺流の律僧たちが、密教東遷の担い手となり、北条氏一門や安達氏など、鎌倉幕府要人の絶大な保護を受けた。

武家政権によって外護された東国の密教は、やがて畿内の密教と拮抗する勢力をもつようになり、独自の法流を形成する方向に展開したようである。しかし、鎌倉幕府の突然の崩壊、その後の政治情勢の混乱によって、東国の密教の独自の動きは歴史の中に埋没していった。「邪教」という烙印を捺された「立川流」が象徴的に示すように、関東で形成された密教諸流は、室町時代になると、京都方から見れば異端とされ、その後の宗教史の中では正統に評価されることはなかった。

鎌倉を中心にして中世の東国で生成・発展した密教の様相を示す資料はきわめて限られており、それが研究の遅滞を招いていた。金沢に残る称名寺聖教・龍華寺聖教は、この研究課題に相応する研究素材である。

2. 研究の目的

本課題は、日本中世において、鎌倉に成立した武家政権が中央（畿内）の文化体系を吸収・咀嚼し、やがて拮抗するまで成長する過程を、歴史学の立場から、密教の聖教という素材を用いて検証しようとするものである。

中世の鎌倉において、あらゆる分野にわたって中央からの文化移入が積極的に行われ、東西競合する形で展開した。そこに日本文化の重層性を作り出したメカニズムを見出すことができよう。文献史料が比較的豊富にのこされる密教を素材として、そのような現象の実証的な研究を進めることは、日本中世史の一つの重要な核心に迫りうる題材であると考えた。

3. 研究の方法

問題設定にあたり、現代まで継続する有力な真言密教の法流の一つである西院流と地蔵院流に注目した。両法流ともに、鎌倉時代の文永～弘安年間に安達泰盛が師僧を鎌倉に招き、法流の正統性を象徴する根本聖教を手中にした事実が知られている。

(1) 西院流

東密広沢六流の一つである西院流は、宏教

(1184～1255)が晩年に安達氏の招きによって鎌倉に下向し、鎌倉の無量寿院に住した後、能禅が附法となり、根本聖教を受け継いだことが知られている。しかし弘安8年(1285)の霜月騒動によって安達氏が滅亡した折、無量寿院も被災し、能禅の跡を受けた法爾房覚仁が根本聖教を所持したまま逐電したという。それ以来西院流の正嫡をめぐる京都方・鎌倉方の対立が顕著になった。称名寺聖教に痕跡をとどめる法爾所伝の『西院八結』と、龍華寺聖教に残る印融収集の元瑜方『西院八結』は、鎌倉時代後期～室町時代前期の西院流をめぐる事情を明らかにしうる素材となるであろう。

具体的な研究方法としては、現行の能禅方『西院八結』と、龍華寺伝来元瑜方『西院八結』が対照できるような目録を作成し、その差異に注目する。現行本に存在しない元瑜方独自の聖教を抽出することによって、鎌倉で独自に生成した法流分派の内実を探ることができると考えた。

(2) 地蔵院流

東密小野流の中核となる三宝院流の分派である地蔵院流は、三宝院流の内部抗争に破れた親快(1215～76)が、文永年間に醍醐寺を離れて樹立した法流である。親快の門下は京都近辺を中心に活動したことが知られている。親快の附法を受けた親玄(1249～1322)は鎌倉に下向し、佐々目遺身院に住した後、鎌倉幕府の後楯を得て醍醐座主・東寺長者となった。地蔵院流の根本盛況も安達泰盛の許に預けられ、泰盛滅亡後は鎌倉極楽寺に移されたままとなった。南北朝時代に室町幕府・鎌倉公方の懇願を受けた鶴岡八幡宮寺の供僧・頼印の仲介でようやく都方に戻されたという経緯がある。

地蔵院流の成立の経緯、法流の東国伝播を知る上で、称名寺聖教に含まれる『三宝院流伝授聞書』『正嫡相承秘書』は、従来知られていない史実を記録しており、その内容を分析することによって、密教法流をめぐる京都・鎌倉の関係を浮かび上がらせることができるのではないかと考えられた。

4. 研究成果

(1) 龍華寺聖教の研究

概観

龍華寺聖教については、目録調査によってほぼ全体像をつかむことができた。その作業の過程で見いだされた中世まで遡る主要な資料についての研究を論文の形で公表するとともに、金沢文庫における特別展『もうひとつの鎌倉文化～金沢龍華寺の聖教と秘宝』(平成23年3～5月)として展示・公開し、成果を世に示すことができた。

分量の多い聖教目録や翻刻については、ま

だ公刊できる段階にまで達していないが、おおむねの方向性はつかむことができた。既存の目録データの点検・整備と合わせて、今後の大きな課題となろう。

主要な聖教については写真撮影を実施しており今後の研究の素材として確保することができた。今後必要に応じて参照しうる体制は整えられた。

なお龍華寺そのものの成立について、明応7年(1498)の大地震・津波との関連を示す資料を確認できた。前身寺院である金沢光徳寺の実態解明とあわせて、地域史研究の題材として今後注目を集めることになるであろう。

西院流元瑜方聖教の検討

東密広沢六流の一つである西院流元瑜方の根本聖教は、室町時代の印融(1435~1519)が整理を加えた写本一括が知足山龍華寺(横浜市金沢区)にまとまった形で伝来するが、今まで体系的に検討されたことがなかった。今回の研究にあたり、龍華寺に存する印融本元瑜方「西院八結」と、京都で伝承されてきた現行の能禅方西院流聖教の目録を整理し、両者の差異を明らかにするとともに、龍華寺聖教の中に単独で伝来した元瑜関係聖教の検討を行った。

その過程で、『宝珠護摩壇図』『大円覚寺鎮壇事』と題する聖教を見出し、北条時宗の発願による鎌倉円覚寺の創建にあたって、頼助・元瑜らが地鎮作法を行なった後に無学祖元が入山し、禅院として出発したことが判明した。これは、初期の鎌倉禅院が密教的基盤の上に移植されたことを示す重要な発見と位置づけられる。

さらに単独の形で伝来した元瑜に関わる聖教のうち『聖天啓白』『去識還来巻教』などからも、文永~弘安年間における得宗家・北条一門・安達氏の密教修法の実施状況が明らかになり、鎌倉後末期における現世利益希求の様相が浮かびあがってきた。後世「立川流」などの俗称で異端視され、排撃される得意な密教文化の淵源が、この時代の鎌倉に存したことを明らかにした。

注目される新出資料の発見

なお、龍華寺聖教の全体調査の過程で『三国祖師影』の古写本を発見した。小野仁海の撰と考えられる印度・中国・本朝の仏教祖師の肖像画を集成したこの図巻は、中世に遡る古写本として東京国立博物館(高山寺旧蔵)本・大谷大学図書館本・醍醐寺本が知られているが、龍華寺新出本は、文字部分を忠実に模写した形跡があり、平安時代に成立した原本の面影を伝える資料として、美術史的にも注目される。この資料が龍華寺に入った時期は不明であるが、関東に流伝した古写本として注目されよう。

さらに龍華寺聖教からは、三輪流神道などの密教系神道の伝授・修法に関わる新出資料や、曆注の迷信として江戸時代末期に登場する「六曜」が、それ以前に弓矢の祈禱伝授の中で伝承されていたことを示す『三国相伝鳴弦之図』など、民間信仰の起源を考える上で参考となる資料を数多く発見している。

(2) 称名寺聖教の研究

地蔵院流聖教の検討

地蔵院流聖教については、称名寺聖教に含まれる『三宝院流伝授聞書』の翻刻を完成した。検討の結果、恭畏撰『密宗血脈抄』(下巻)に引用される記事と共通する事が判明した。応永32年(1425)に下総国下川辺庄宝生寺で照海が写したという奥書をもつこの写本は、称名寺の寺領地域にあった地方寺院を媒介とする密教法流・知識・情報の伝播を示す資料として興味深い。宝生寺は現存しないが、書写者の照海にかかわる聖教を伝える正福寺(幸手市・旧内国府村)が法縁寺院であるらしく、金沢文庫文書「まんぶくし百姓等申状」の該当地に比定される天神島満福寺の本寺であることも注目される。なお渡辺匡一氏によって福島県円通寺・香川県善通寺にも写本が現存することが紹介されており、南北朝時代以降の地蔵院流の流伝について大きな手がかりが得られるものと推測される。

『正嫡相承秘書』

地蔵院流の根本文書を集成した称名寺聖教所収本『正嫡相承秘書』については、目録を作成し、現存する原本の追跡調査を実施したが、まだ一部の現存しか確認できていない。本文そのものの翻刻に着手することはできなかったため、原本の追跡調査とともに今後の課題となっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

西岡芳文、中世の六浦と上行寺東遺跡、「神奈川地域史研究」、26号、50~59頁、2008、査読有

西岡芳文、鎌倉の学問遺跡、『史跡で読む日本の歴史』(高橋慎一郎編・吉川弘文館)、6巻、157~184頁、2010、査読有

西岡芳文、武士の教養と文化、『武家の古都・鎌倉の文化財』(五味文彦編・角川学芸出版)、193~219頁、2011年、査読有

西岡芳文、龍華寺聖教に見える中世鎌倉の密教修法の一断面、『密教美術と歴史文化』(真

鍋俊照編・法藏館)、523~546頁、2011、査読有

西岡芳文、円覚寺の創建と密教の祈禱、アジア遊学(勉誠出版)、142号、90~93頁、2011

〔学会発表〕(計2件)

西岡芳文、式盤を祭る密教修法(盤法)の諸相、コロンビア大学日本宗教研究所「陰陽道」シンポジウム、2009年5月2日、ニューヨーク・コロンビア大学

西岡芳文、金沢称名寺における説草の生成と使用、説話文学会・仏教文学会合同例会、2009年12月12日、金沢文庫

〔図書〕(計2件)

西岡芳文、称名寺の庭園と伽藍、神奈川県立金沢文庫特別展図録、2010

西岡芳文、もうひとつの鎌倉文化~金沢龍華寺の聖教と秘宝、神奈川県立金沢文庫特別展図録、2011

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西岡 芳文 (NISHIOKA YOSHIFUMI)

神奈川県立金沢文庫 学芸課長

研究者番号：90443407

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：